

# 地域活性化の視点から、ASEAN諸国やインドとの交流の可能性を探る！ 平成24年度国際交流推進セミナー開催結果について

(財)自治体国際化協会交流親善課

## はじめに

近年、地方自治体における国際交流は、従来の欧米・中国・韓国を中心とした交流に加え、経済成長の著しいASEAN諸国・インドとの新たな交流の可能性を模索する方向へと広がりを見せています。

一方で、日本の自治体において、ASEAN諸国・インドとの交流事例は少なく、具体的な交流を行っている自治体の活動事例に関心を持つ自治体が増えてきています。

このような背景のもと、この度、「地域活性化の視点から、ASEAN諸国やインドとの交流の可能性を探る」をテーマに、国際交流推進セミナー

### 開催概要

日 時	2013年1月18日(金) 午後1時30分から4時30分まで
場 所	(財)自治体国際化協会 1階大会議室
テ ー マ	地域活性化の視点から、ASEAN諸国やインドとの交流の可能性を探る
内 容	<p>1 講演</p> <p>(1) 地域活性化の視点からみた、自治体が新たに取り組むASEAN、インドとの交流について 講師：高崎経済大学経済学部教授 佐々木 茂</p> <p>(2) インバウンド観光市場としてのASEAN 講師：日本アセアンセンター観光交流部プロジェクトマネージャー 神田 瑞穂</p> <p>2 事例発表</p> <p>(1) 横浜市とムンバイ市の主な交流について 発表者：横浜市国際政策課課長補佐 白井 一夫</p> <p>(2) 堺・アセアンウィークを中心とした取り組み 発表者：堺市アセアン交流推進室長 前川 さゆり</p> <p>3 質疑応答</p>
主 催	(財)自治体国際化協会 (交流支援部交流親善課)
参 加 者	27名

を開催しました。

参加者からは、「ASEAN諸国、インドとの交流の事例を知る事ができて良かった」「ムスリム受け入れ事例が理解できて良かった」といった声をいただきました。

## セミナー概要

セミナーでは始めに、第1部として、自治体の国際戦略に造詣の深い高崎経済大学の佐々木茂教授に、「地域活性化の視点からみた、自治体が新たに取り組むASEAN、インドとの交流の取り組み方法」について、具体的な取り組み事例や、今後の展望について講演していただきました。次に、ASEAN諸国との交流を推進している日本アセアンセンター観光交流部の神田瑞穂プロジェクトマネージャーに、「インバウンド観光市場としてのASEAN」について、ASEAN諸国からの観光客誘致の注意点、取組手法の視点から講演いただきました。

次に、第2部として、実際に、ASEAN諸国やインドと交流を行っている横浜市と堺市の事例を紹介していただき、最後に、講演や事例発表の内容等について質疑応答を行いました。本誌では、その要旨を紹介します。



講師および事例発表者

(1) 講演 第1部

「地域活性化の視点から、ASEAN諸国やインドとの交流の可能性を探る」

～高崎経済大学 佐々木茂教授～

冒頭で、地域活性化の視点から、地域経営の課題として、地域経済の主要な担い手である中



小企業数の推移、講演の様子

外国からの日本訪問観光客数の傾向、農産物の輸出振興を図る上での懸案事項等を提示いただきました。

そして、これらの課題を解決する方法として、佐々木先生の専門分野であるマーケティングやブランド戦略の視点から、自治体が今後の地域活性化に向けた成長戦略を推進していく上で選択していくべき施策等について、企業の海外展開の事例、自治体の垣根を越えて広域連携を進めている九州観光協会の取組事例、産・学・官・民が協働して地域活性を図っているニュージーランドの事例等を具体的に紹介していただきながらお話いただきました。

(2) 講演 第2部

「インバウンド観光市場としてのASEAN」

～日本アセアンセンター 神田瑞穂

観光交流部プロジェクトマネージャー～

ASEAN諸国と積極的な交流を展開している日本アセアンセンターの概要を説明された後、ASEAN諸国の概要、ASEAN諸国からの訪日外国人数、ASEAN諸国の主要訪日マーケットとしてのGDP、訪日に必要なビザ、ASEANからの訪問客の旅行スタイル、旅行のハイシーズン時期、特に増加の見込まれるASEANの穆斯林観光客の特徴等について、ASEAN諸国からの観光客の誘致に向けた可能性についてお話いただきました。

(3) 事例発表①

「横浜市とムンバイ市の主な交流について」

～横浜市 白井一夫課長補佐～

横浜市とインド・ムンバイ市の1965年の姉妹都

市提携以降48年間に亘る姉妹都市交流を振り返って、姉妹都市交流を行うに至ったきっかけや、市民交流、経済交流から、横浜市ムンバイ拠点機能設置につながった経緯等について発表していただきました。

(4) 事例発表②

「堺・アセアンウィークを中心とした取り組み」

～堺市 前川さゆり アセアン交流推進室長～

はじめに、アセアン交流推進室の設置経緯(2008年12月設置)を述べられた後、「堺・アセアンウィーク」の概要、「堺・アセアンウィーク」のプログラムの詳細、参加国を現在の5か国(カンボジア王国、インドネシア共和国、フィリピン共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国)から10か国に拡大するための新たなネットワークの構築を中心とした今後の課題等について発表していただきました。

おわりに

本セミナー参加者にご協力いただいたアンケートによると、セミナーへの参加を決めた理由として多かったのが、「今後成長が期待されるASEAN諸国・インドとの交流に関心があるから」「海外販路開拓事業を行う中、今後の海外戦略の方向性、先行事例の取り組みを参考にしたい」というものでした。

国際交流の転換期を迎え、多くの自治体が急速に成長を続けるASEAN諸国、インドとの新たな交流を模索していることを実感しました。

国際交流の成果は、目に見える形ですぐにはあらわれるものではないかもしれませんが、継続し、お互いに絆を深めていくことで、次のステージにつながることをあらためて感じました。今後は、これまで積み重ねてきた国際交流に加え、成長を続ける国々との交流を地域の活性化にどう活かしていくのか、しっかりと考えていくことが大切だといえます。

なお、本セミナーの詳細につきましては、当協会交流親善課のホームページに掲載していますので参照ください。

(参考) <http://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/jinzai.html>